令和5年度第2回大磯町スポーツ健康会議

- 日時 令和5年11月7日(火) 午後7時15分～午後8時20分
- 場所 大磯町保健センター2階研修室(ZOOM併用)
- 出席者 会長、副会長ほか8名
- 事務局 スポーツ健康課長、スポーツ健康課職員
- 傍聴者 0名

議題

(1)第2期けんこうプラン大磯の進行管理について

事務局：(資料説明)

●意見提案及び質疑

【委員】 「4. 基本目標・基本施策の全体評価」は事業者が書くのか。事業ごとではなくなるのか？

【事務局】 今までは事業ごとにシートがあって100ページ以上あった。それは今後も各担当課で書いてもらうが、それをまとめたものが「4. 基本目標・基本施策の全体評価」になる。これはスポーツ健康課で作成するものである。

【会長】 今回はこの形で進行管理を行っていくという了解を得るということで良いか

【事務局】 そのとおりである。この流れでやっていきたいと考えている。

【委員】 自分の関連する事業シートは3枚くらいあり、似たようなことが記載してあるが、事業ごとにまとめることはできるのか。

【事務局】 重複している事業がかなりあるので、そういう場合には1枚のシートで良いという形にしたい。1つの事業がいくつかの施策に入っている場合に以前はそれぞれ1枚ずつ記載していたが、今後は1枚で良いという形にする。

【委員】 3年前から委員になっているが、その前までこの存在を知らなかった。まとめるのが大変だと思っている。それぞれ担当しているものがあって事業をやっているけども、それぞれの事業の中で周知していかなければならないのか。

【事務局】 計画は皆さんに知ってもらわないと、計画を作るだけで終わってしまい、実行

されない。町民の皆さんに理解してもらえるように作っているが、どのようにすればよりわかりやすく伝えるかが課題である。ホームページや広報などでお知らせする機会があるかどうかかわからないが、各事業を通して皆さんに伝えていけたらと思っている。

【委員】 そうすると、委員も皆さんに伝えるという仕事もあるのか。

【事務局】 町と一緒にやっていただいている団体というところで伝えていただけるとありがたい。

【委員】 事業をやっているところでこういうことをやっていることを貼ってみたが誰も目を通そうとしていなかった。だから大変だろうなという意見を出させていただいた。

【会長】 委員をされている皆さんが行っている事業はこの計画に入っていると思う。そういうところを意識してもらって活動したり、関わりのあるところから関連付けてもらうというところから始めてもらうと良いのかなと思う。ぜひ委員の皆様から発信していただけたらと思う。

【委員】 この目標値はどのように決めるのか。

【事務局】 基本的には各担当課で決めてもらう。令和5年度については、前計画を参考に目標を立ててもらうが、令和6年度については、各事業の実績を上げていただいて、スポーツ健康課でまとめる。その後、「4. 基本目標・基本施策の全体評価」の次年度への取組みを記載し、各担当課に戻して目標を立ててもらう。

【委員】 前回、委員から、事業者として他市よりも頑張ったということが行政内での評価に反映されていないことがあった。事業者としっかりヒアリングをして、担当課とスポーツ健康課と3者で話をして評価をする必要があり、その中で目標を決めなければいけないと思う。評価については、絶対評価であるべきなのか相対評価であるべきなのか考える必要がある。目標値を下げればみんなAだが、かといって厳しすぎると評価が下がってしまう。目標値の設定は極めて大事だと思う行う事業が多いので重要性、緊急性を考慮しどの事業を伸ばすのか、どこを縮小するのか、事業仕分けを皆さんの目でやっていく必要がある。

【委員】 目標としては、100%達しないといけないというものもあるが、何の話題でもなか

なか100%にはならない。統計学でいうと95%以上であれば良い。でないはずと結果が出ない形になってしまう。100%を目指すけれども95%以上で良いというのを注釈で入れてはどうか。前回出た意見をかなり反映していただいているが、人数を増やさなければいけないとか、10%アップしてさらに10%アップとかあるけども、なんとか5年後には50%に達している形、がん検診の受診率などの低めな数値のところではまず半数を令和9年度に目指すということで良いのではと思う。全部100%というところは難しいので、そのあたりをご考慮いただきたい。

【委員】 シートの内容については、とりあえずこの形でやっていってより良いものができれば良いと思う。前回出た意見も反映された部分もあるのでまずやっていければ。

【委員】 自分が何枚かシートを書くであろうと想像しながら見ているが、重要度・緊急度の欄があるが、これは自分で書くのか。

【事務局】 どの事業も重要で緊急だと思うが、その中でも特にやらなければいけないもの、急いでやらなければいけないものについては、丸をつけていただくというものである。

【委員】 「5. 数値目標達成状況一覧」の「体育・スポーツ大会等の実施数」の目標が35回となっているが何が含まれるのか？体協主催の町民大会だけでも27大会あってその他、例えばチャレンジフェスタや駅伝なども含めて35回か。

【事務局】 委員のおっしゃったとおり体協主催の大会、町主催の大会、スポ推主催の大会含めた形である。令和4年度については、この中に記載はないが、40回近い数値になっており、目標に達している状況である。

【委員】 目標は35回のままで良いのか。

【事務局】 けんこうプランの中では35回となっているが、実際に超えている状況で増やしたり維持したりしたいという状況ではあるが、あとは町主催でスポーツ教室を子ども向けにやっているが、いつも同じものではなく新しいものを取り入れたりとか、子どもの体力不足というところもあるので、いろいろな事業を展開していきたい。回数もそうだが、質のところでも実現していきたい。

【委員】 けんこうプラン大磯は何年計画か。

【事務局】 5年である。

【委員】 目標値は35回だとするとずっと35回のままなのか？それとも毎年、35回だったら次は36回とか、50回以上は無理だから50回とするとかいろいろな考え方があるが、それは変わるものなのか。

【事務局】 「5. 数値目標達成状況一覧」の目標値でいうと令和4年度で令和9年度を超えてしまっているが、それぞれのシートだと各年度での目標が設定できる。例えば令和4年度では達成できたので、次はプラス2、プラス3やろうという形で令和5年度の目標を設定することができる。

【委員】 実際の目標値と「5. 数値目標達成状況一覧」の目標値は別ということか？5年目と1年目では4年の差があるので目標値が変わってくると思う。町の他の計画では、いったん目標値を決めると5年間変えることができないといわれたが、実際は目標値を上げることは可能ということか。

【事務局】 「5. 数値目標達成状況一覧」の数値は変わらないが、各事業の目標値は変えることができる。

【会長】 計画に令和9年度の目標値が出てしまっているので「5. 数値目標達成状況一覧」の数値は変えられない。そうすると、回数ではなく、目標に対してどのくらい達成できたのか、パーセンテージの評価になった方が良いのかもしれない。

令和5年度から記載する形となっているが、一番下の枠に【課題・今後の取組み】の欄がある。令和5年度の課題や今後取組みを書く形になるのか。

【事務局】 今回の【課題・今後の取組み】は進行管理を行った年度についての課題・取組みを入れる形である。その後、スポーツ健康課で「4. 基本目標・基本施策の全体評価」を作成する際に各課から出た課題・取組みをまとめていき、それに対してどうしたら良いかというところをやっていくという形としたい。

【会長】 数値を出しただけではなく、それに対してどのように考えているとか、できなかった理由とか、今後どうしたら良いかというのは毎年やるべきだと思うので了解した。

(2) 大磯町自殺対策計画の素案について

事務局：(資料説明)

●意見提案及び質疑

【委員】 P. 35 の相談支援体制の充実のところ、今現在どのようなところと連携をしているのか。

【事務局】 地域課題の相談体制については、神奈川県で自殺対策の相談体制を設けている。その中で特に男性に特化したもの、就労、仕事に対する相談窓口を設けているので周知を図っていきたい。

【委員】 町民に対する町役場の相談体制はあるのか。

【事務局】 役場に相談があった場合は、まず担当課で受けて神奈川県などの相談窓口につなげる形で支援を行っている。

【委員】 町内に精神科のクリニックができたので連携してはどうか。

【事務局】 現在、連携していない。

【委員】 緊急性を要する場合があるかもしれないので、町内の精神科の先生にもこういう取組みをやっているということを知ってもらって、一緒に参加していただければ良いと思う。日本だと精神科というと敷居が高いイメージがあるが、実際は心療内科、カウンセリングである。それによって救われる方もたくさんいるので、町がつなぐことも考えてよいのでは。

【事務局】 町内に精神科の医療機関があるので、町の自殺対策の取組みを知ってもらい、調整したい。

【委員】 けんこうプランとも少し関わってくるが、どう評価していくのかというところについて意見を述べさせていただきたい。目標値をゼロにするというものになってくると思う。たとえゼロになったとしても本当に対策になったかと言われるとどうかというところもあり、その前段階のところが大切になってくる。心療内科の先生に何件くらい相談が来ているのかとか1か月あたりでどのくらいの人数が来ているのか1年の中でいつ件数が多いのかがわかれば町もPRをしていけば効果的になっていくと思う。また、救急で運ばれた方の要因がわかって、人数も多くなれば亡くなる方も多くなるということになる。その値を増えないようにしていくという形しかできないのではないか。救急病院や心療内科と連携して相談件数を把握し右肩下がりになるようであれば効果が出ているというようになるのではないかと。また、けん

こうプラン大磯を策定する際にアンケート調査をやっていたと思うが、その中で自殺対策に資する項目を1項目でも追加してはどうか。悩むことがあるかどうかなどを5年に1回調査して、そこに対してアプローチができていくかというところがわかれば評価ができるのではないかと思う。一方で取りこぼしが出ないように心療内科と連携をして、町に相談が来た時にはつなげられるような体制が大切になってくると思う。

【事務局】 役場の中の関係機関や外部の関係機関と連携して、件数が把握できるかどうかというところもあるが、確認する。連携計画にけんこうプラン大磯もあるので、アンケートの中で何か工夫ができないか考えていきたい。周知については、町だけではなく、県もいろいろな自殺対策の相談窓口を設けているので、周知の仕方については新たに工夫した取組みができるように考えていきたい。

【会長】 メンタルクリニックは地元に行きたくないという人もいる。大磯町にあるクリニックに受診される件数が反映されているかは参考になるかもしれないが、全部ではない。病院や救急でそういう案件がいくつかなどどこまで開示できるか非常に微妙である。県の保健福祉事務所にも相談してもらって、データも保健所で持っている場合もあるので、力を借りてはどうか。町の中での相談事を解決するためにネットワークを作っていくことが大事である。その中に町のクリニックの先生に入ってもらうのが重要である。町全体のメンタルヘルスに関する問題に対して先生から意見を聞くのも大事ではないかと思う。そういう仕組みを作ってはどうか。サブタイトルが「誰も自殺に追い込まれることのない大磯町」となっているが、「自殺」という言葉が非常にナーバスになっていて、「自死」という言葉を使ったりしている。ただ国が自殺対策という言葉を使っているので計画の名前は変えられないと思うが、サブタイトルはもう少し希望が見えるようなものにできないか考えても良いのではと思っているがいかがか。

【委員】 「自殺に」を抜いても良いのではないか。「自死」にしてもあまり変わりはない。

【委員】 プラスのイメージで住みやすいとか暮らしやすいとか前向きな言葉でも良いのではないか。

【会長】 パブリックコメントをもらうときに計画の内容だけではなく、サブタイトルについての意見をもっても良いのではないか。

【事務局】 前回の計画を作ったときに国の方で『誰も自殺に追い込まれることのない社

会」の実現を目指して』という形で自殺対策基本法の改正をしているので、それを参考に作成した。パブリックコメントでサブタイトルについて御意見をいただくのは難しいと思うので、委員の皆様から御意見をいただいて、次回完成させるときに変更させていただくのはどうか。

【会長】 次回またパブリックコメントの結果を受けて計画案が作られるのでその時までにご提案いただくという形でよろしいでしょうか。

【副会長】 P.32 の子ども・若者への支援ということでソーシャルサポートワーカーを配置し、とあるが、学校ではS SWは、スクールソーシャルワーカーという言い方をしている。どちらでも良いと思うが、P.8 のところではS SWをスクールソーシャルワーカーという言い方に合わせてはどうか。

【委員】 P.14 で「各関係機関との連携を図りました」というところがあって、大磯町区長連絡協議会や大磯町民生委員児童委員協議会にも依頼して連携を図りましたとあるが、3月まで自治体の役員をやっている区長が区長会の報告をしてもらっていた。この2年間いじめに関する対策についての報告が一回もなかった気がする。ということなのか。区長会は町民課だが、町民課に書類を持っていってお願いしますといったのか、区長会に担当課が行って説明をして依頼をしたのか、回覧をしたのか一切していない。また依頼したあとのフォローはしないのか。

【事務局】 区長への説明に関しては学校教育課で「大磯町いじめ防止基本方針」の説明と併せて地域に皆様にも児童生徒の見守りのお願いをした。

【委員】 自治会として2年間、このことに関しては動いていない。本来やるのであれば全戸配布したり、回覧したりするのではないか。そんなに手間がかかることではない。そうすると他の関係団体も大丈夫なのか心配になってしまう。

【事務局】 各会議において説明はさせていただいているが、町民に対してわかりやすい方法をとった方がより良いと思う。国でも自殺対策の週間と月間というのを定めていて、その時に広報で自殺対策の特集記事を作って相談窓口などの周知をしているけどもそれとは別の方法で広報と一緒にチラシを作って皆さんに配布するなど検討していきたい。

【委員】 正直、広報を見ていない人は非常に多い。

【委員】 子どもから大人までそういう選択をしてしまう可能性がある。今回は担当課がスポーツ健康課だということだが、子育て支援課とか学校教育課、町民課も関わってくるので役場の中で横断的に議論をすることによっていろいろな問題点が出てくると思う。どうやって周知するかなども大切なことなので、そういった会議をしても良いと思う。

【事務局】 町で自殺対策の取組みをやるにあたって庁内の関係各課の課長が委員となっている連絡調整会議を開いている。今後、具体的に話していきたい。

【会長】 これまでの取組みとして記載してあるので、内容についてももう一度確認をしていただきたい。これからの取組みについては、横断的にいろいろな部署が関わってくるので、題材としてぜひ話し合いをしていただきたい。

【事務局】 年度が終わってから、関係各課にどういう取組みを前年度で1年間やっていたかという回答をスポーツ健康課でとりまとめをして取組みに記載している。

【会長】 それは一方的に受け入れてまとめているだけなので、もっとやり取りをしてほしい。

【会長】 それでは、また次回パブリックコメントの結果を受けてから会議があるのでまた御意見をいただきたい。事務局は、議題1も併せていただいた御意見を踏まえて反映していただきたい。

その他

事務局：(今後のスケジュールについて説明)

閉会

(閉会)